

令和8年度第1回高齢者福祉専門分科会後に各委員より寄せられた意見書の内容

	分類	ご意見(要約)
1	策定の考え方	現場の声が反映された「生きた戦略」を盛り込んだ策定が重要である。
2	策定の考え方	八王子市民のウェルビーイング向上を大切にする重点戦略の柱立てが重要である。
3	策定の考え方	認知症当事者へのアンケートの対象者については、一部の意見に偏ることなく、各デイサービスなどで認知症高齢者の声を幅広く拾い上げて欲しい。
4	策定の考え方	「データサイエンス」の視点による、より適切な現状認識をした上での議論が必要である。
5	評価手法	9期計画においては量的指標が多く設定されているが、事業の評価にあたっては、量的評価だけでなく質的評価を用いた両輪による評価が重要である。 そのためには質的評価の軸の整理・検討が重要である。 例えば次のようなものは量的評価になじまないと考える。 *住民や高齢者の「安心感」や「満足感」などの生活の質 *支援における信頼関係や関係性の構築などのプロセス（どのように関わったか） *利用者の多様なニーズ
6	評価手法	9期計画における成果指標について。 主観的幸福感や満足度では、内容の重みや深刻度が異なる。
7	施策目標・重要テーマの設定	16の施策目標については見直し検討が必要と考える。「未来」の柱については、DX、異文化人材、多様性などについて、どう考え、どう支援していくのかも、事業として項目に追加して欲しい。
8	施策目標・重要テーマの設定	身寄りのない高齢者（単身高齢者・親族に頼ることができない高齢者）への対応は焦眉の課題である。 10期計画では、身寄りのない高齢者への対応について、より明確に示すと良いと考える 施策目標あるいは重要テーマの一つに位置付けても良いかもしれない。

	分類	ご意見(要約)
9	個別事業（高齢者あんしん相談センターの負担軽減）	<p>はちまるサポートの拠点化、高齢者あんしん相談センターの機能強化などにあたって、まず、高齢者あんしん相談センターの業務や負担の見直しが必要である。</p> <p>新たなツールの導入や取り組みは逆に事務負担が増えるのではと思う。できる限り現在の業務全体を見直し、負担の省力化を進めていくべきではないか。</p>
10	個別事業（高齢者あんしん相談センターの負担軽減）	<p>高齢者あんしん相談センターの役割・業務量は今後さらに増加が想定される。「包括が機能不全にならない予防的設計」として、主に次の点について検討をお願いしたい。</p> <p>*業務の整理・重点化 *効率化の推進（ICT活用等を含む） *過重負担を防ぐ体制設計（業務量と人員配置の適正化）</p>
11	個別事業（高齢者あんしん相談センターの負担軽減）	<p>高齢者あんしん相談センターの業務量増大については、適切な業務分析とそううえでのDX化が必要である。</p> <p>例えば「相談対応・課題整理」という業務は次に4フェーズに分けられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 情報収集／課題整理・必要な支援機能の確認 2 支援方針や役割分担の案の作成 3 支援会議の開催 4 支援プラン等の作成・実行 <p>1・2・4はAI活用が直ちに対応可であり、時短効果は絶大と考えられる。</p>
12	個別事業【重層的支援体制整備事業】	<p>重層的支援体制整備事業については、古い歴史を持つ社会福祉協議会の強みが発揮されるのではと事業開始当初から期待している。困っている人を一人もとりこぼさないためにも、時間がかかっても整備して欲しい。</p>
13	個別事業【連携体制・サロン等】	<p>地域づくりの核の一つでサロンがある。サロンは、民生委員・生活支援コーディネーター・地域包括支援センターともつながっている。サロンから困りごと（独居のサロン参加者に認知症の症状のある方が…など）をつないだりということもある。しかし、個人情報保護の点もあり、その後の対処・経過などがサロン側には知らされない。サロンのメンバーは単なる通報者なのか。</p>
14	個別事業【相談体制】	<p>困ったときにどこに相談したらよいかを、市民に広く知って欲しい。</p> <p>例えば、「『認知症まるごとガイドブック』を全戸配布する、広報はちおうじで各分野の『困ったときにどこに相談したらいいか』について特集を組むなどしてはどうだろうか。</p>
15	個別事業【相談体制】	<p>現状では、相談窓口が多岐にわたり、困ったときにどこに相談すればよいか分かりにくい。広報等を通じた分かりやすい情報発信が必要である。</p>

	分類	ご意見(要約)
16	個別事業【相談体制】	相談窓口を地域ごとに1箇所に集約化することはできないか。市民にとって「ここへ行けば何でも相談できる」という場所があることは非常に重要である。
17	個別事業【介護予防・フレイル予防】	様々な主体が測定会を実施しているが、その情報が特定地域にしか届いていない。広報等を活用し、市内全域で「どこでどのような測定会が行われているか」を知らせる仕組みが必要である。
18	個別事業【介護予防・フレイル予防】	「わくわく」（住民主体による通所型サービス）について、拠点数を増やし、健康づくりサポーターが活躍できる場を広げることが必要と考える。また、わくわくの利用がセンターでしかできないため、利便性の改善が望まれる。
19	個別事業【介護予防・フレイル予防】	フレイル測定会において行動変容や習慣化を促すには、専門職を支える健康づくりサポーターの存在が不可欠である。行政が中心となり、健康づくりサポーターが活躍できる測定会を実施することが重要である。
20	個別事業【データ活用・DX】	住民の意見をデジタルで収集し、自動集計・自動分析を行うことで政策形成への反映がスムーズになると考えます。アンケートのデジタル化が進んでいるのであれば、結果の可視化や公表はより容易になると思われます。
21	個別事業【データ活用・DX】	データ活用やDX化において、大学や専門機関と連携していると思われるが、どのような機関とどのように連携しているのか。
22	個別事業【介護予防・フレイル予防】	SOFTにおける明治安田厚生事業団との協働にあたって、データ整理・分析・評価・公表等でどのような支援があるのか。
23	個別事業【介護予防・フレイル予防】	測定会が多様な主体により実施されているが、測定方法が統一されていない。市が指針を出し、統一的な方法で実施することが必要と考える。
24	個別事業【介護予防・フレイル予防】	測定会について、保健福祉センターを中心に、高齢者あんしん相談センター、わくわく、はちまるサポート、SOFT等が実施している。行政の指導のもと、可能な範囲で統一的な体制で実施できないか検討して欲しい。

	分類	ご意見(要約)
25	個別事業【介護予防・フレイル予防】	各機関は測定結果を市へ報告しているとのことであるが、市としてどのようにデータをまとめ、活用しているのか伺いたい。今後は、紙や手作業による処理から、入力・集計・分析・フェードバックまでをデジタルで統合する仕組みが必要と考える。
26	個別事業【介護予防・フレイル予防】	データを行政が集約・管理し、参加者にフェードバックや個別支援に活用されることが重要と考える。データの一元管理により、事務の重複や非効率の解消、医療・介護費の中長期的な抑制にも寄与すると考える。
27	その他	今回資料の第9期計画の施策目標における指標や目標値について、根拠となるアンケートなどについて記載をして欲しかった。

【参考】令和8年度第1回高齢者福祉専門分科会における各委員のご意見(質問は除く)

	氏名 (敬称略)	分類	ご意見(要約)
1	田中裕之	10期計画策定方針	基本的に9期計画を引き継ぐということで良いが、生産性やDX化について項目が見当たらないので、国の方針とも照らし合わせると項目として追加した方が良いと思う。
2	杉原陽子	10期計画策定方針	9期計画の基本的な考えを継承するというのは良いと思う。PDCAサイクルの観点で計画を回していくためにも、計画をコロコロと変えていくのはよろしくないと思う。9期計画を基本的には継承しつつ、見直すべき点は見直して、加えるべき点は加えて、10期計画を策定するというのが良いと考える。
3	塚本恵里香	10期計画策定方針	9期計画の継承という方針については賛成である。ただし、市では社会福祉協議会との連携の枠組みを見直していく考えがあるという説明を以前聞いた。9期計画を継承する上で、こうした点はどのような枠組みで検討するのか整理して欲しい。
4	塚本恵里香	10期計画策定方針	今後多様な社会の形になっていくだろうというなかで、外国人や多民族の方たちのフォローも入ってくると思う。上位計画の地域福祉計画も見直されるところでそのような視点も検討して欲しい。
5	千種康民	10期計画策定方針	2040年という中長期的な視点を見据えた社会構造の変化に対応するには、複合的ニーズの増大、介護人材不足、制度への信頼低下という点を意識した大枠の改革が必要である。そのためには介護DXという小さいレベルでは不十分であり、中期的視点で包括的な仕組みに転換すべき。第9期計画における重要テーマ1～7は従来の延長でとらえられるが、重要テーマ8「介護DX」を大きく変えて、劇的変化に対応できるような縦串としてはどうか。
6	杉原陽子	10期計画策定方針	2040年に向けて、身寄りのない人が増えてくるため、その対応というは今から備えていかないといけない。9期計画の策定時点ではその視点が薄かったので、施策目標として見直す必要があるかもしれない。
7	尾寄敏夫	評価方法について	目標値については、具体的などのような事業を行うのかを踏まえて、実態に即した数字を設定すべきだと思う。
8	塚本恵里香	調査について	10期計画の策定にあたって実施するアンケートについて。経年の変化をみて検討するという点で、あまり設問を変えないで欲しい。
9	尾寄敏夫	他計画との関係の表現	上位計画や関連計画との関係性・位置づけについて、「整合」や「調和」という表現が行われているが、どのような意図か。特に意味がなければ、10期計画においては表現を統一した方が良いと考える。
10	佐藤一広	個別事業(高齢者あんしん相談センター負担軽減)	高齢者あんしん相談センターの現場では、相談対応に大変時間がかかる。情報提供で終わるものはほぼなく、1週間・1か月・1年なかには数年単位でも解決につながらないものも。多機関連携がうまく機能しないこともあり、センターで対応を進めることも。9期計画では負担軽減をうたっているが軽減感を感じず、業務のボリュームが増えすぎている。大きい道筋で高齢者あんしん相談センターが地域全体の相談機能を有する可能性があるとのことだが、今の状況と人材の仕組みではもたない。そういう方向性があるなら、今のうちから業務整理と効率化を図らないと間に合わないと思う。